



平井 伸 治

鳥取県知事

住まっように旅する時代へ

新しい生き方を提案する地域づくり

地方の時代と言われ、行政が中央から地域に軸足をおかないと日本が元気になる時代。その若きリーダーのひとりが鳥取県の平井伸治知事だ。

いま鳥取県はどのような位置にあり、どのような課題を抱えているのか。

今年、10月19日(土)から21日(月)にかけて鳥取県で開催される

「エコツアーリス△国際大会2013 in 鳥取」を前に、平井知事にお話をうかがった。

収録日/2012年10月9日

於/都道府県会館(東京)

インタビュアー/高梨洋一郎(日本エコツアーリス△協会「E△S」理事)

エコツアーリス△に

取り組みをきっかけ

「住まっように旅する時代へ

いるものがそのまま気づいています。産業革命以降、人間が自然を征服するという開発及び近代製造業の流れから鳥取県は取り残されてきたように思われました。しかし、だからこそ逆に、いま私たちのところに適切な視点からの産業も含めた課題についてお考えをお聞かせください。平井 本来の旅とは、時間に追われた日常の生活や現実の喧騒から逃れ、自然界の時間の流れを取り戻すことにあるのだと思います。これからは、あわてて色々なところを駆け足で見まわるのでなく「住まっように旅する」時代に入っていると感じています。自然のリス△の中に溶け込み、生き物として体の中心からエンジョイできるような旅、人間の本性に近いものへと誘う旅、それはまさにエコツアーリス△の思想と合致していると思えます。

鳥取県には、大山という神々しく人々に親しまれている山があり、美保湾、中海などの美しい水辺空間、広大なアヲの原生林、砂丘、美味しい食べ物、里の営みなど、日本人にとって大切な観光の商品を作っていくなければなりません。鳥取県では昨年「国際まんが博」を開催し、新しい魅力を付け加える取り組みも行っていますが、我々の本質からいけばエコツアーリス△が切り札になります。

兼高かおる前丁E△S会長をはじめ高梨洋一郎丁E△S理事に旅行作家協会として鳥取県で特別例会を実施していただき、様々な作家と出会い、私たちはこういふ旅のスタイルを目指したらいいかなのかが段々



日本海から望む初冬の大山

鳥取県では昨年「国際まんが博」を開催し、新しい魅力を付け加える取り組みも行っていますが、我々の本質からいけばエコツアーリス△が切り札になります。

兼高かおる前丁E△S会長をはじめ

高梨洋一郎丁E△S理事に旅行作家協

会として鳥取県で特別例会を実施し

ていただき、様々な作家と出会い、

私たちはこういふ旅のスタイルを目

指したらいいかなのかが段々

